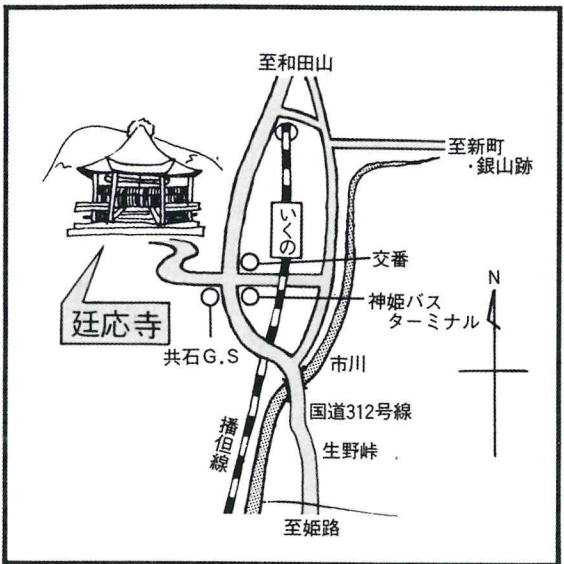


◆宝積弁財天

辯財天はサラスヴァティという河の河神で福德、知恵、財宝を授け給う。当寺の宝積辯財天は、八臂で脇仏に福を授ける大黒天、毘沙門天と並立し、十五童子を従えた尊像で、一度の祈りで三尊のご利益を願い、あらゆる幸福安泰をまとめて成就するとして信仰されました。

◆厄除坂と不老長寿の御守り

十九段（十九歳）女厄坂、四十二段（四十二歳）男厄坂、六十一段（六十一歳）老坂を上って観音さんへ参拝。昭和五十五年十一月、大櫓の枯れ枝整備で、記念に作った御守り。



◆玉緒明神

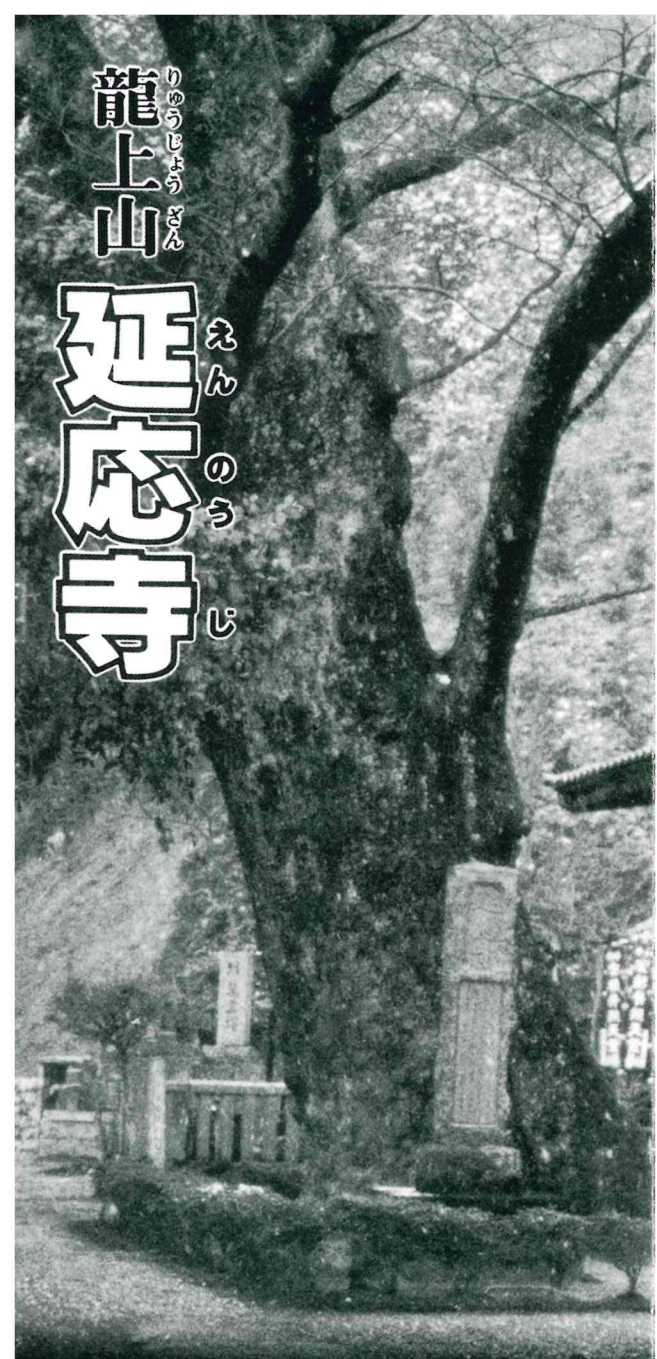
卵ぐらいの大きさの水晶の珠が大切に祀られている。これはその昔、神功皇后が三韓へ長征された帰途、海上で産気づかれ、その時筑紫豊浦の海中から手に入れた玉に帰国後の出産を願われた。帰国後めでたく皇子を誕生になった皇后のある夜の霊夢に海中より如意之玉神があらわれ、安産の神として祀れとの神託があったという伝説の玉で、長遍上人が如意輪観音とこの玉緒明神を笈に納め、諸国を巡行したといわれている。

■法要

修正会	(正月)
節分会	(二月三日)
弘法大師祭	(四月二十一日)
弁天祭	(六月八日)
日限地藏祭	(七月二十三日)
盂蘭盆会	(八月十五日)
彼岸会	(三月) (九月)
水子観音祭	(十一月二十三日)

- あし/播但線生野駅下車十分歩く。姫路駅より神姫バス生野行乗車（生野駅裏）下車、十分歩く。
- くるま/国道三二二号線J R生野駅裏より西へ四〇〇メートル。
- 延応寺/朝来市生野町口銀谷八三一—
(〇七九六)七九—二二二九

龍上山 延応寺



縁起

【御詠歌】

たつのぼるやまのみてらにきてみれば
しげりにつづくまつのむらだち

弘法大師が各地を巡錫の途中、生野高原にある達摩が峰という霊地に堂を建て、自ら彫った
千手観音を安置し祀った。延応元年（鎌倉時代）野火が四方より起こって堂は炎に包まれた。
この時観音は飛鳥のように空高く舞いあがり、当寺の樺の巨木に飛んできて梢にとまり、夜々
光を発した。たまたま諸国行脚中の高野山長遍上人が通りかかり、これを見て土地の人々と共
に周囲を森で囲んだ堂を建て観音を祀ったといわれる。森垣村という地名もこのようにしてお
こった。観音のあらたかな霊験を伝え聞いた四条天皇は、時の年号を採り寺号を延応寺とせよ
との勅号を賜わった。その後数度の火災に炎上し、現在の堂宇はすべて昭和三年再建されたも
のである。

◆本尊

二十一年毎に開扉する秘仏で昭和五十二年に開帳された。御身の丈五尺八寸の木像立像で、平安後期の作ではないかと推定されている。この時代には藤原氏の豪華な貴族文化の影響をうけて、春の陽を浴びたようにおだやかで豊麗な御姿の仏像が多くつくられるようになってきたが、その作風は地方の仏師達にも受けつがれてきたのだろうか。素朴な中にも豊かな美の感じられるみ仏で、彩色もまだかすかに残っているところをみると秘仏として大切に守られてきたのだろう。半眼に憂愁を帯びて千年立ちつくしたみ仏を仰ぎみると、日本人の中に流れてきた高貴な勁い精神に触れた思いがして胸が熱くなってくるのである。

◆樺の大木

樹齢千年といわれる樺の大木は、青い空に巨大なオブジェのように枝をはりひろげている。
延応寺の格好の目印になっていて幹の周囲が一メートルもあり、天然記念物となっている。この樹の梢に野火の難をのがれた観音が飛んできたという伝説がある。

◆生野義挙

幕末の文久三年八月の政変で京都を追われた尊皇攘夷派の志士、筑前の平野国臣、薩摩の美玉三平らは但馬に潜伏し、但馬の農民志士、北垣晋太郎、中嶋太郎兵衛らと図って農兵隊を組織した。折から大和五条に兵を挙げた天誅組を応援するため、長州にのがれていた公卿沢宣嘉ら（のぶよし）をむかえて生野代官所を襲撃しようとした。計画の進行中に天誅組は破れたとの報が入ったが、沢に随従する長州奇兵隊の南八郎ら、強行派の情熱にひきずられ、ついに代官所を占領した。しかし周辺諸藩の討伐隊の出勤が伝えられると総師沢宣嘉らは脱走。強硬派の南八郎ら十三人は鎮圧の豊岡、出石の藩兵をむかえ打つため朝来町山口の妙見山に立てこもったが、ねがえた農民にとり囲まれ、自刃して義挙の志はもろくもくずれ去った。現在代官所跡地に（生野義挙趾）の碑が建っている。この事件が後の討幕運動、維新のさきがけとして果たした役割は大きいと見られている。志士たちが集まって新しい時代への夢を語りあい、義挙への計画を練った場所が延応寺であった。

◆日限地藏

参道の途中に地藏堂がある。日を限って祈ると霊験があらたかだといわれ、受験とか病氣平癒に願をかける人々が多い。地藏菩薩は観音信仰とともに昔から多くの庶民に深く信仰され愛されてきた仏である。釈迦入滅の後、弥勒菩薩がこの世を再び救済してくれるまでの長い長い時間、無仏の現世にとどまって衆生を濟度するのが地藏菩薩だといわれている。仏陀でありながら仮に僧の姿に身をやつしているのだともいう。

